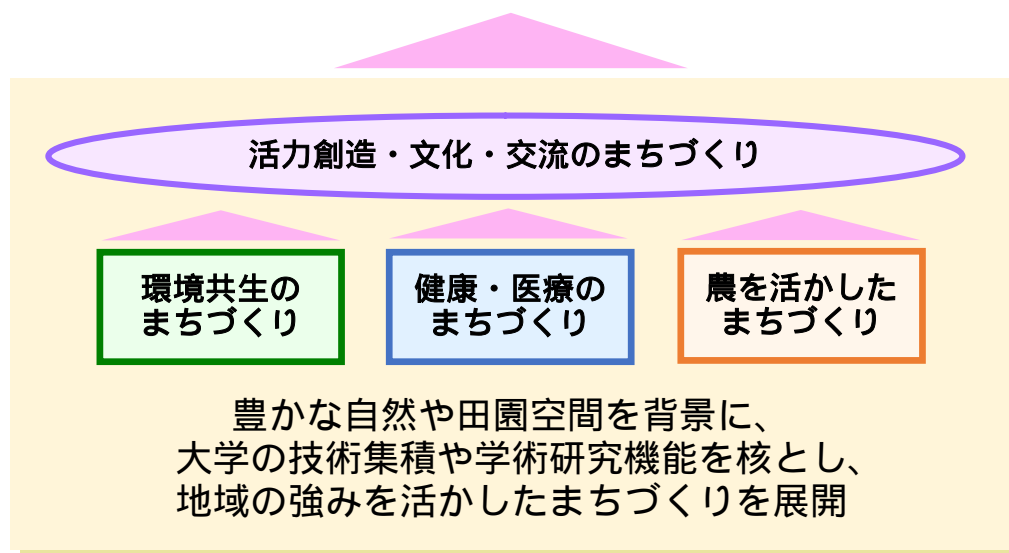


4 まちづくりのビジョン

4-1 まちづくりのめざす姿

みらいを創造するキャンパスタウン
新しいライフスタイルを生みだし、持続的に発展しつづけるまち



豊かな自然や田園空間を背景に、慶應義塾大学SFCの持つ情報・環境・医療分野等の技術集積や学術研究機能を核にして、京浜臨海部ライフィノベーション国際戦略総合特区の指定などの動きもふまえ、地区が持つ強みを活かし、大学の学生や教職員、研究者、産業界、市民、行政などまちづくりを担うさまざまな主体が連携して展開される環境共生や健康・医療、農業等に関する活動や取組によって、活力が創造されるまちをめざします。

また、こうした活動や取組、人々の交流によって、新しいライフスタイルを提案するまちを形成するとともに、時代の変化に呼応し持続的に発展するまちをめざします。

豊かな自然環境や環境との共生を実感できるまち（環境共生）

遠藤笹窪谷(谷戸)をはじめ里山や田園の美しい風景や豊かな自然を感じ、また、農業体験や観光農園、フットパスの散策などによって誰もが豊かな自然環境にふれあうことができるまちをめざします。

さらに、インフラや建築物には最新の環境技術が取り込まれた街なみの形成や、豊かな自然環境を活かした眺望を確保することで、環境との共生を実感できるまちをめざします。

元気に充実したときを過ごすことのできるまち（健康・医療）

地域の資源を活かした「健康増進」の取組や病気を未然に防ぐ「未病」の概念を取り入れた医療などが展開され、加齢しても健康を維持し、元気に暮らせるまちをめざします。

また、学び、就労、ボランティア活動、NPO活動など様々な活動の場が用意されており、社会や人とのつながりを実感でき、さらに豊かな自然とのふれあい、趣味・特技・遊びなど、誰もが充実した時をすごせ、自分らしく、健康に生きられる魅力あるまちをめざします。

身近に農を体感できるまち（農を活かす）

本地区の周辺地域で盛んな農業を背景として、この地域で採れる新鮮で安全な農産物等を購入でき、おいしく味わい、また、体験農園などで収穫等の農作業に参加できることで、生活の中に農が取り入れられ、身近に農を感じられるまちをめざします。また、周辺地域の農業の振興にも寄与するまちをめざします。

多様な人々の参加・交流により、活力が創造されるまち（活力創造・文化・交流）

慶應義塾大学SFCやその周辺地域において、地域の強みを活かした「環境共生」「健康・医療」「農を活かす」まちづくりの展開により、多世代交流、異文化、異業種交流等が活発で、新しい「もの」「技術」「文化」等が創出される活力のあるまちをめざします。

また、人々の多様化するニーズやライフスタイルに応える魅力的なコミュニティプログラム・ワークショップなどが開催されるとともに、芸術や趣味など自己表現の場が豊富に用意されており、地区の伝統的な祭事なども含めて、この地区に多様な人々が集まり活発に交流するまちをめざします。

4-2 ライフスタイルの想定

(1) 想定する居住者や来訪者

本地区やその周辺においては、国際的に活躍する大学教員や、滞在型教育研究施設で学び・研究する人、ヘルスツーリズムや短期滞在型健診で訪れる人など、短期間あるいは中期間居住・滞在する人が比較的多く集まることが特色となり、多様な人々が様々な目的で訪れ・住み・交流することにより、創造的な活動や新たなライフスタイルを提案するまちをめざします。

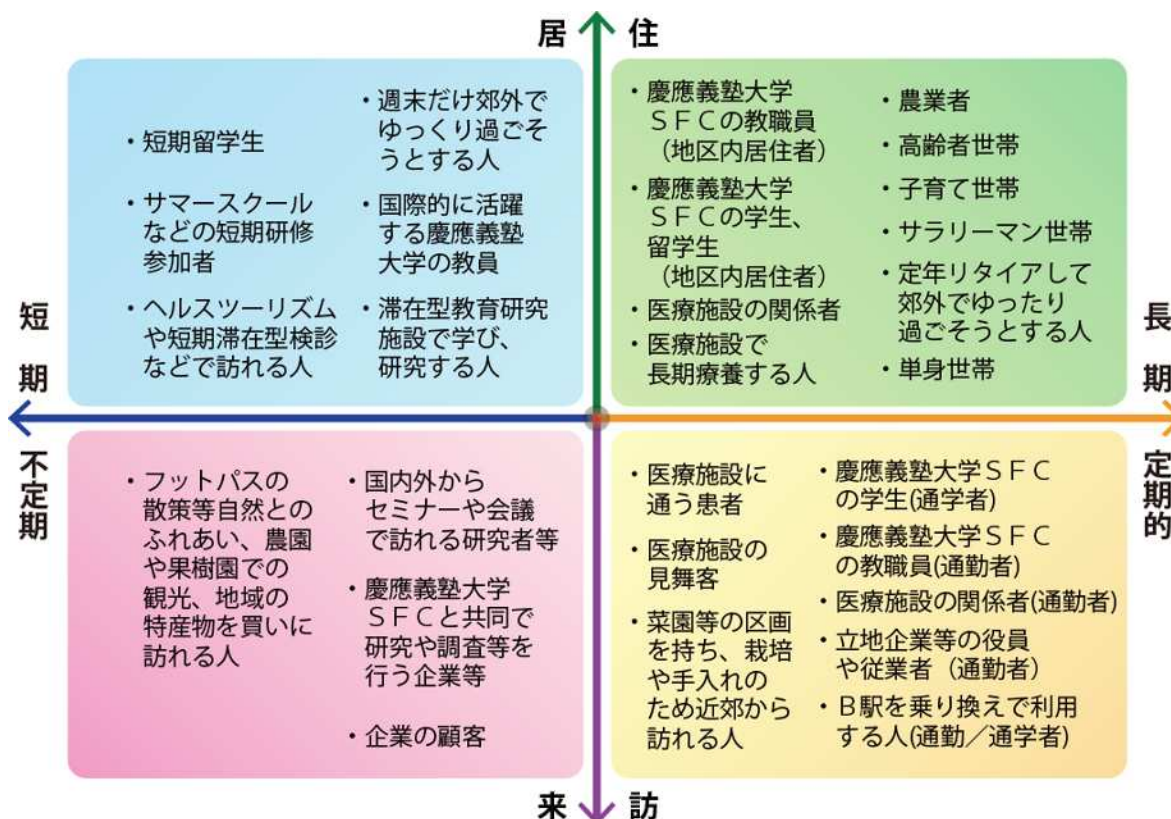


図 想定される居住者や来訪者

(2) 想定するライフスタイル

本地区においては、環境共生のまちづくり、健康・医療のまちづくり、農を活かしたまちづくり、及び、それらをもとにした活力創造・文化・交流のまちづくりを展開することで、新たなライフスタイルの実現をめざします。

『自然あふれる田園環境の豊かさ（アドバンテージ）を実感できる』

誰もが、駅に降りたった瞬間から、濃い緑とせせらぐ水、心地よい風、富士山の眺望など、豊かな自然を五感で感じられる。

このまちに住む人や滞在する人は、水辺や緑及び土地利用や建築物の配置が工夫されているため、夏は小出川沿いから南風が吹き込み、冬は防風林が北風を遮り太陽の光が降りそそぎ、「夏は涼しく、冬暖かく」エコで快適な暮らしができる。

また、周辺で採れた新鮮で安全で安心できる肉や野菜などをいつでも手に入れられることができ、地元農家の指導を仰ぎながら野菜をつくる機会にも恵まれ、作った人の顔や想いを思い浮かべながら料理や食事を楽しむことができる。

『贅沢なスローライフを過ごす』

本市近郊や首都圏などから、多くの人がこのまちを訪れ、農産物等の直売所、観光農園や果樹園などで安全安心かつ新鮮な食材を手に入れたり、あるいは地産地消レストランや果樹園の一角を利用したバーベキュー施設などで、この土地ならではのおいしい食事を楽しむことができる。

また、特産品の買い物や食事の後は、手入れの行き届いた森の中や、季節の花咲く川沿いの土手などのフットパスを散策し、ゆったりと癒しの時間を過ごすこともできる。

豊かな自然に囲まれる中で、最先端の技術を用いた検査・治療・リハビリなどを受けるため、また、病気の予防や未病の治癒を目的とした森林セラピーやカウンセリングを受けるため、多くの人々が訪れ当地に滞在する。

『滞在・生活することで健康・元気になる』

この街に住む人や中長期滞在する人は、日常生活における徒歩主体の移動、健康の森周辺のフットパスの散策、周辺の菜園での野菜の栽培や土いじり、緑地や樹木管理のボランティア、大学の公開講座やイベントへの参加、新たな医療施設による通信型の体調データ管理など、身近に健康づくりに接することができ、医療費・介護費も抑えることができる。

病気やけがになっても、特区内で開発された医療ロボットを用いたりリハビリや最先端の治療を受けられる。

また、子育て世帯、高齢者、学生、外国人など多層・多世代と一緒に働き、学び、交流する場が用意され、社会やコミュニティと互いに関わり合い、助け合い、支え合う。

高齢者や身体に障がいのある人も、体系化された地区の交通システムや技術的な移動アシスト機器等を利用して、起伏に富む地形を苦勞せずに移動し、買い物、通院、余暇等の日常の行動を行う

ことができる。

大学連携型 C C R C * の取り組みもこのまちの一部として溶け込み、充実した日々を過ごすことができる。

『新たな技術・アイデアに触れ、知的好奇心を満たすことができる』

慶應義塾大学 S F C や企業が連携し、新たな技術やアイデアを生み出すために、本地区を実証的な実験を行うフィールドとして活用する。

住民や来訪者も、こういった取り組みにモニターやボランティアとして関わることで、新しい技術・アイデアに触れ、知的な刺激を受けることができる。また、活動を行うことによって、社会とのつながりという生きがいを見出すことができ、充実した日々を送ることが可能となる。

また、慶應義塾大学 S F C が中心にあるため、その時代の要請に応じた先端の技術に触れることができるため、知的好奇心を満たすことが可能となる。

* C C R C : Continuing Care Retirement Community (高齢者が、健康で元気なうちから加わり、老化の進行に応じたヘルスケアサービスを受け、人生の最期まで過ごすための生活共同体)